ト 士三〇十、六〇三四、十一〇二九、十三〇二五、十四〇六　母上十〇十、十六〇十三
チ 士十九〇三九
リ 士廿一〇五、八、十
ヌ 士廿〇一
ル 士二〇五
ヲ 母下二四〇九
ワ 母上十一〇三
カ 母上卅一〇十一
ヨ 士七〇十六
タ 母上十〇三七
レ 路十九〇三七
ソ 出十四〇十三、卅　母上十九〇五
ツ 母下十九〇廿二
子 母上十〇八
ナ 母上十〇十七
ラ 母上十〇八
イ 母上八〇五、十九〇廿
ロ 母上十〇二四、十一〇十四、十五
ハ 民二七〇十七　母上八〇廿
ニ 母上八〇一、五
ホ 母上十二〇五、十〇一、二四〇六　母下一〇十四、十六
ヘ 民十六〇十五　徒廿〇卅三　撒前二〇五

五 爰にサウル田より牛ゐ去たごのひて來るサウルいひけるは民何によりて哭くやと人々これにヤベシ人の事を告ぐ　六 サウル之を聞るとき神の靈これゐ臨みてろの怒甚だしく燃えたち　七 一軛の牛をころしてこれを切り割き使の手をもてこれをイスラエルの四方の境にあまねくおくりていはしめけるゐ誰にてもサウルとサムエルにゑたごひて出ざる者ゐ其牛かくのごとくせらるべしと民ヱホバを畏み一人のごとく均くいでたり　八 サウルベゼクにてこれを數ふるにイスラエルの子孫三十萬ユダの人三萬ありき　九 斯て人々來れる使にいひけるゐギレアデのヤベシの人にかくいへ明日日の熱き時汝ら助を得んと使かへりてヤベシ人に告げゝれば皆よろこびぬ　十 是をもてヤベシの人云けるゐ明日汝らに降らん汝らの善と思ふところを爲せ　十一 明日サウル民を三隊にわかち曉更に敵の軍の中にいりて日の熱くなる時までアンモニ人をころゑけれゐ遺れる者ゐ皆ちりぐにおりて二人俱ゐあるものなかりき　十二 民サムエルにいひけるゐサウル豈我ちの王とおるべけんやと言しゐ誰ぞや其人を引き來れ我ら之をよろさん　十三 サウルいひけるゐ今日エホバ救をイスラエルに施したまひたれば今日ゐ人をころすべからず　十四 抜にサムエル民にいひけるゐいざギルガルに往て彼處にて王國を新にせんと　十五 民みなギルガルにゆきて彼處にてエホバのまへにサウルを王となし彼處にて酬恩祭をエホバのまへゐ献げサウルとイスラエルの人々皆かしこゐて大に祝へり

第十二章

一 サムエルイスラエルの人々にいひけるゐ視よ我汝らが我にいひし言をことごとく聽て汝らに王を立たり　二 見よ今王汝らのまへにあゆむ我ゐ老て髪ゑろし視よわご子ども汝らと共にあり我幼稚時より今日ゐいたるまで汝等のまへにあゆめり　三 視よ我こゝにありエホバのまへと其膏ろゝぎし者のまへに我を訴へよ我誰の牛を取りしや誰の驢馬をとりしや誰を掠めしや誰を虐遇しや誰の手より賄賂をと

ト 申十六〇十五
チ 出廿二〇四
リ 約十八〇三八　徒十三〇九、二四〇十六、廿
ヌ 米六〇四
ル 士五〇十一
ヲ 詩一〇十八、五〇三、四　箴六〇二二
ワ 創四六〇五、六
カ 出二〇廿三
ヨ 出三〇十、四〇十六
タ 士三〇七
レ 士四〇二
ソ 士十〇七、十三〇一
ツ 士三〇十二
子 士三〇十三
ナ 士十〇十
ラ 士十〇十五、十六
ム 士六〇十四、卅二　士十一〇一
井 母上七〇十三
ノ 母上十一〇一
オ 士八〇廿三　母上八〇七、十〇十九
ク 母上八〇五、十九
ヤ 母上十八〇五、九〇廿
マ 母上十〇十四
ケ 何十三〇十一
フ 雲二四〇十四　詩八一〇十三、十四
コ 利二六〇十四、十五　申二八〇十五　雲二四〇廿
エ 母上十二〇九
テ 出十四〇十三、卅一
ア 箴二六〇一

ゐ汝らもしエホバの言ゐ去たがむずしてエホバの命ゐろむかむエホバの手汝らの先祖をせめしごとく汝らをせむべし　十六 汝ら今たちてエホバが爾らの目のまへゐおしたまふ此大なる事を見よ　十七 今日ゐ

りてわごの目を矇せしや有べ我これを汝らゐろへさん　四 彼らいひけるゐ汝ゐ我らをこのすめずくるしめず又何をも人の手より取りしことなし　五 サムエルこれらゐいひけるゐ汝らごの我手のうちゐ何をも見いださるをエホバ汝らゐ証ゑたまふ其膏ろゝぎし者も今日証す彼ら答へけるゐ証ゑたまふ　六 サムエル民にいひけるゐエホバゐモーセとアロンをたてし者汝らの先祖をエジプトの地より導いだせしものなり　七 立ちあごれエホバご汝らおよび汝らの先祖ゐおしたまひし諸の義しき行爲ゐつきて我ヱホバのまへゐ汝らと論ぜん　八 ヤコブのエジプトゐいたるゐおよびて汝らの先祖のエホバに呼はりし時エホバモーセとアロンを遣たまひて此二人汝らの先祖をエジプトより導きいだして此處ゐすましめたり　九 ゑかるに彼ら其神エホバを忘れしかばエホバこれをハゾルの軍の長シセラの手とペリシテ人の手ゐおよびモアブ王の手にわたしたまへり斯て彼らこれを攻ければ　十 民ヱホバに呼たりていひけるゐ我らエホバを棄てバアルとアシタロテに事へてエホバに罪を犯したりされど今我らを敵の手より救ひだしたまへ我ら汝ゐつかへんと　十一 是ゐおいてエホバエルバアルとバラクとエフタとサムソンを遣たして汝らを四方の敵の手より救ひいだしたまひて汝ら安らのに住めり　十二 ゑこるに汝らアンモンの子孫の王ナハシの汝らを攻んとて來るを見て汝らの神エホバ汝らの王なるに汝ら我にいふ否我らをおさむる王なかるべからずと　十三 今汝らご選みし王汝らがねごひし王を見よ視よエホバ汝らに王をたてたまへり　十四 汝らもしエホバを畏みて之ゐつかへ其言ゐ去たごひてエホバの命ゐろむかずまた汝らと汝らををさむる王恒ゐ汝らの神エホバゐ從ゑば善し　十五 ゑかれども汝らもしエホバの言ゐ去たがむずしてエホバの命ゐろむかむエホバの手汝らの先祖をせめしごとく汝らをせむべし　十六 汝ら今たちてエホバが爾らの目のまへゐおしたまふ此大なる事を見よ　十七 今日ゐ

サ 雷十〇十二　母上七〇九、十　雅五〇十六、十七、十八
キ 母上八〇七
ユ 出十四〇卅一　嗣十〇九　出九〇二八、十〇十七、雅五〇十五　約巡五〇十六
ミ 耶十六〇十九　哈二〇十八　哥前八〇四
シ 申十一〇十六
エ 雷七〇九　詩百六〇八　耶十四〇廿一　結廿〇九、十四
ヒ 王上六〇十三　詩九四〇十
モ 申七〇七、八、十四〇二　馬一〇二
セ 徒十二〇五　羅後一〇三　一〇九
ス 王上八〇三六　代下六〇二
イ 詩三四〇十一　蔵四〇十一
ロ 傳十二〇十三
ハ 申十〇廿一　詩百二六〇二、三
ニ 雷五〇十二
ホ 申二八〇三六
ヘ 雷二四〇廿

麥刈時わあらずや我エホバを呼んエホバ雷と雨をくだして汝らが王をもとめてエホバのまへわ爲したる罪れ大なるを見知らしめたまはん　かくてサムエルエホバをよびければエホバ其日雷と雨をくだしたまへり民みな大わエホバとサムエルを恐る　民みなサムエルわいひけるわ僕らのためわ汝の神エホバわいのりて我らを死なざらしめよ我ら諸の罪にまた王を求むるの惡をくはへたればなり　サムエル民わいひけるわ懼るなかれ汝らこの總ての惡をおしたりされどエホバわ從ふことを息ず心をつくしてエホバに事へ　虛しき物わ迷ひゆくおのを是わ虛しき物なれば汝らを助くることも救ふことも得ざるあり　エホバ其大なる名のためわ此民をすてたまわざるべし其わエホバ汝らをおのれの民とおすことを善とおたまへばなり　また我わ汝らのためわ祈ることをやめてエホバに罪をかすことわ決てせざるべし且われ善き正しき道をもて汝らををしへん　汝ら只エホバをかしこみ心をつくして誠わこれにつこのへよ而して如何わ大なることをエホバ汝らわなしたまひしかを思ふ可し　去われども汝らもしなは惡をなさば汝らと汝らの王ともにほろぼさるべし

第十四章

一 サウル三十歳にて王の位に即く彼二年イスラエルををさめたり　二 爰にサウルイスラエル人三千を擇む其二千わサウルとともにミクマシおよびベテルの山地にあり其一千わヨナタンとゝもにベニヤミンのギベアわあり其餘の民わサウルおのゝ其幕屋わかへらしむ　三 ヨナタンゲバわあるペリシテ人の代官をてろせりペリシテ人之れをきく是わおいてサウル國中わあまねくラッパを吹ていはしめけるわヘブル人よ聞くべし　四 イスラエル人皆聞けるわ云くサウルペリシテ人の代官を擊り去かしてイスラエルペリシテ人の中わ惡まると斯て民めされてサウルわ去たがひギルガルわいたる　五 ペリシテ人イスラエル

ヘ 代下十六〇九
ト 母上十五〇十一
チ 母上十五〇二八
リ 詩八九〇廿　徒十三〇廿二
ホ 母上十〇八
ヌ 母上十四〇二
ル 母上十三〇三
ヲ 雷十八〇廿三
ワ 雷十六〇三、十八〇十三、十四
カ 尼十一〇三四
ヨ 王下二四〇十四　耶二四〇一
ニ 士六〇二
イ 母上十〇二六
ロ 母上十〇五
ハ 創三四〇卅　出五〇廿一

と戰さんとて集りけるぶの兵車三百騎兵六千わふして民わ濱の沙の多きごとくおりき彼らのぼりてベテアベンわむかへるミクマシわ陣をとれり　六 イスラエルの人苦められ其危きを見て皆巖穴わ林叢わ崗巒に高塔に坎阱わかくれたり　七 また或るヘブル人わヨルダンを渉りてガドとギレアデの地にいたる然るわサウルわ尙ギルガルわあり民皆戰慄て之わ去たごふ　八 サウルサムエルの定めし期わ去たがひて七日とゞまりしがサムエルギルガルに來らず民はなれて散ければ　九 サウルいひけるわ燔祭と酬恩祭を我わもちきたれと遂わ燔祭をさゝぐげたり　十 燔祭をさゝぐることを終しときに視よサムエルいたるサウル安否を問はんとてこれをいで迎ふに　十一 サムエルいひけるわ汝何をなせしやサウルいひけるわ我民の我をはなれてちりまた汝の定まれる日のうちわ來らざしてペリシテ人のミクマシにあつまれるを見しかば　十二 ペリシテ人ギルガルに下りて我をおうはんに我いまだエホバをなごめずといひて勉て燔祭をさゝげたり　十三 サムエルサウルにいひけるわ汝おろかなることをおせり汝ろの神エホバのなんぢに命じたまひし命令を守らざりしなり若し守りしならばエホバイスラエルををさむる位を永く汝に定めたまひしならん　十四 然ともいま汝の位たもたざるべしエホバ其心に適ふ人を求めてエホバ之に其民の長を命じたまへり汝ぢエホバの命ぜしてとを守らざるわよる　十五 かくてサムエルたちてギルガルよりベニヤミンのギベアにのぼりいたるサウルおのれとゝもわある民をかぞふるわ凡ろ六百人ありき　十六 サウルおよび其子ヨナタン並にこれとゝもわある民わベニヤミンのゲバに居りペリシテ人わミクマシに陣を張る　十七 劫掠人三隊わわかれてペリシテ人の陣よりいで一隊わオフラの路にむかひてシュアルの地にいたり　十八 一隊わベテホロンの道に向ひ一隊わ曠野の方わあるゼボイムの谷をのぞむ境の路わむかふ　時にイスラエルの地のうち何處にも鐵工おのりき是

む　ペリシテ人へブル人の劍あるひい槍を作ることを恐れたれば　なり　二十　イスラエル人皆其耜鋤斧耒　即ち
耜鋤三齒鍬斧の鍛に欠ありてこれを鍛ひ改さんとする時又鞭を尖らさんとする時い常にペリシテ人の
所わくだれり　是をもて戰の日にサウルおよびヨナタンとともにある民の手にい劍も槍も見えず只サウ
ルと其子ヨナタンのみ持り　廿一　茲にペリシテ人の先陣ミクマシの渡口わ進む

第十四章

一　其時サウルの子ヨナタン武器を執る若者にいひけるいいざ對面にあるペリシテ人の先陣に
渉りゆかんと然ど其父にも告ざりき　二　サウルギベアの極においてミグロンにある石榴の樹の下に住まり
しゞ俱にある民いおよそ六百人なりき　三　又アヒヤニポデを衣てともにをるアヒヤわアヒトブの子アヒト
ブハイカボデの兄弟イカボデわピネハスの子ピネハスわシロにありてエホバの祭司たりしエリの子なり
民ヨナタンの行けるを知らざりき　四　ヨナタンの渉りてペリシテ人の先陣にいたらんとする渡口の間に此
傍わ嶮巖あり彼傍にも嶮巖あり一の名をボゼッといふ一の名をセネといふ　五　其一い北に向ひてミクマシ
に對し一い南にむかひてゲバわ對す　六　ヨナタン武器を執る少者わいふいざ我ら此割禮なき者どもの先陣
にわたらんエホバ我らのためわむたらきたまふことわらん多くの人をもて救ふも少き人をもてすくふも
エホバにおいてい妨げなし　七　武器をとるもの之わいひけるい總て汝の心わあるところをなせ進めよ我汝
の心わ汝たゞひて汝とゝもわあり　八　ヨナタンいひけるい見よ我らこの人々のところわわたり身をかれら
にあらはさん　九　かれら若し我らゞ汝らわいたるまでとゞまれと斯く我らわいはゞ我らいよのまゝとゞま
りてゐれらの所わのぼらじ　十　されど若し我らのところわのぼれとかくいはゞ我らのぼらんエホバかれら
を我らの手にわたしたまふなり是を徵となさんと　十一　斯て二人其身をペリシテ人の先陣わあらはしければ

イ　母上十三〇十五
ロ　母上十三〇九、十一、廿
ハ　母上十三〇三八
ニ　母上十四〇廿一
ホ　母上十三〇廿三
ヘ　士七〇四　七　代下十四〇十一
ト　創二四〇十四　士七〇十一
チ　士七〇廿一
リ　王下七〇七　伯十八〇十一
ヌ　母上十三〇十七
ル　創廿六〇五
ヲ　母上十四〇廿
ワ　民二七〇廿一
カ　士七〇廿二　代下廿〇廿三
ヨ　母上十三〇六
タ　出十四〇卅　詩四四〇六、七　何一〇七
レ　母上十三〇五
ソ　詩六〇二六

ペリシテ人いひけるい見よヘブル人其かくれたる穴よりいで來ると　十二　すなはち先陣の人ヨナタンと其武
器を執る者わこたへて我儕の所わ上りきたれ目わ物見せんといひしのゝヨナタン武器を執る者わいひけ
るい我わ汝たゞひてのぼれエホバ彼らをイスラエルの手わわたしたまふなり　十三　ヨナタン攀のぼり其武器
を執るもの之わ汝たがふペリシテ人ヨナタンのまへわ仆る武器をとる者も後わ汝たがひて之をころす　十四
ヨナタンと其武器を取るもの手はじめわ殺せし者およそ二十人此事田畑半段の内におれり　十五　汝ゐして野
にある陣のものおよび凡ての民の中わ戰慄おこり先陣の人および刼掠人もまたをのゝき地ふるひ動けり
是い神よりの戰慄なりき　十六　ベニヤミンのギベアにあるサウルの戍卒望見しに視よペリシテ人の群衆くづ
れて此彼にちらゝ　十七　時わサウルおのれとともにある民わいひけるい汝ら點驗て誰ゞ我らの中よりゆきし
こを見よとすなはち汝らべたるにヨナタンとその武器を執るもの居らざりき　十八　サウルアヒヤにエポデを
持きたれといふ其いかれ此時イスラエルのまへにエポデを着たれば也　十九　サウル祭司にのたれる時ペリシ
テ人の軍の騷いよ〳〵ましたりければサウル祭司にいふ姑く汝の手を措けと　二十　かくてサウルおよびサウ
ルと共わある民皆呼はりて戰ひに至にペリシテ人おの〳〵劍を以て互わ相擊ちければ其敗績はおそだ大
おりき　二一　また此時よりまへにペリシテ人と共わ上りて陣に來るところのヘブ
ル人もまた翻へりてサウルおよびヨナタンと共にあるイスラエル人に合せり　二二　又エフライムの山地にか
くれたるイスラエル人皆ペリシテ人の逃るを聞てまた戰ひに出て之を追擊り　二三　是の如くエホバ此日イス
ラエルをすくひたまふ而して戰いベテアベンにうつれり　二四　されど此日イスラエル人苦めり其いサウル民
を誓ましてタまで即ちわゞ敵わ仇をむくゆるまでわ食物を食ふ者い呪詛れんと言たれば　なり　是故に民の

ツ 申九〇二八　太三〇五
子 出三〇八　民十三〇二七
太三〇四

中に食物を味ひし者なし　二六 爰ゐ民みな林森に至に地の表に蜜あり　二七 卽ち民森にいたりて蜜のながるゝを
みる然ども民誓を畏るれば誰も手を口につくる者なし　二八 然にヨナタンゐ其父ゐ民をちかはせしを聞ざり
ければ手ゐある杖の末をのばして蜜にひたし手を口につけたり是に由て其目あきらかにゐりぬ　二九 時に民
のひとり答て言けるゐ汝の父ゐたく民をちかはせて今日食物をくらふ人ゐ呪詛むれんと言り是に由て民
つかれたり　三〇 ヨナタンいひけるゐわが父國を煩せり請ふ我この蜜をすこしく嘗しによりて如何にわゐ目
の明らかになりしかを見よ　三〇 ましてや民今日敵よりうばひし物を十分に食しならばペリシテ人をころすこ
と更におほかるべきにあらずや　三一 イスラエル人ゐの日ペリシテ人を擊てミクマシよりアヤロンにいたる
ゑゑして民はなはだ疲たり　三二 是ゐおいて民刼掠物に走かゝり羊と牛と犢とを取りて之を地のうへにころ
し血のまゝに之をくらふ　三三 人々サウルにつげていひけるゐ民肉を血のまゝに食ひて罪をエホバにをかす
とサウルいひけるゐ汝ら背けり直ちにわがもとに大石をまろばしきたれ　三四 サウルまたいひけるゐ汝らわ
かれて民のうちにいりていへ人各其牛と各其羊をわゐのもとに引ききたり此處にてころしくらへ血のまゝ
にくらひて罪をエホバに犯すなかれと此において民おの〳〵この夜其牛を手にひきたりて之をかしこ
にころせり　三五 ゑかしてサウルエホバに一つの壇をきづく是ゐサウルのエホバに壇を築ける始なり　三六 斯て
サウルいひけるゐ我ら夜のうちにペリシテ人を追くだり夜明までかれらを掠めて一人をも殘すまじ皆い
ひけるゐ凡て汝の目に善とみゆる所をおせと時に祭司いひけるゐ我ら此ゐちかのより神にもとめんと　三七 サ
ウル神に我ペリシテ人をおひくだるべきゑ汝のれらをイスラエルの手ゐわたしたまふやと問けれど此日
ゐこたへたまはざりき　三八 是ゐおいてサウルいひけるゐ民の長たちよ皆此ゐちかのよれ汝らみて今日のこの

ム 母上二八〇六
ウ 士廿〇二
非 雷七〇十七　母上十〇十九

ラ 母 七〇十七

ナ 剌三〇十七、七〇二六、十七〇十、十九〇二六　申十二〇十六、廿三、廿四

オ 箴十六〇廿三　徒一〇二四
ク 雷七〇十六　母上十〇廿、廿一

ヤ 雷七〇十九

マ 母上十四〇二七
ケ 母一〇十七

フ 母上十四〇三九

コ 母下十四〇十一、王上二〇五二　路廿一〇十八

ノ 母下十二〇五

罪のいづくにゐるを知れ　三九 イスラエルを救ひたまへるエホバたしかに假令わゐの子ヨナタンにもあれ必ず死
なざるべからずとされど民のうち一人もこれにこたへざりき　四〇 サウルイスラエルの人々にいひけるゐ汝
んぢらゐ彼處ゐをれ我とわが子ヨナタンゐ此處にをらんと民いひけるゐ汝ぢの目によしとみゆるところ
をなせ　四一 サウルイスラエルの神エホバにいひけるゐねがはくゐ眞實を示めしたまへとのくてヨナタンと
サウル籤にあたり民ゐのがれたり　四二 サウルいひけるゐ我とわゐ子のあひだの鬮を掣けと卽ちヨナタンこ
れにあたれり　四三 サウルヨナタンにいひけるゐ汝ゆゑおせしところを我に告よヨナタンつげていひけるゐ我
ゐ只ゆゑの手の杖の末をもて小許の蜜をなめしのみなるが我ゑおざるを知ず　四四 サウルこたへけるゐ神のく
なしまたゑのさねてゑのくなしたまへヨナタンよ汝死ざるべからず　四五 民サウルにいひけるゐイスラエルの中
に此大いなるすくひをおせるヨナタン死ぬべけんや決めて之のらずエホバゐ生くヨナタンゐ髮の毛ひと
すぢも地におつべからず其ゐこれ神とともに今日はたらきたればなりとのく民ヨナタンをすくひて死ゐ
ざらしむ　四六 サウルペリシテ人を追てとを息てのぼりぬペリシテ人其國にゐのへれり　四七 ゑくてサウルイスラ
エルの王の位ゐつきて四方の敵を攻む卽ちモアブアンモンの子孫エドムゾバの王たちおよびペリシテ人
をせめけるに凡てむかふところにて勝利を得たり　四八 サウル力を之アマレク人をうちてイスラエルを其刼
掠人の手よりすくひいだせり　四九 サウルの男子ゐヨナタンエスイおよびマルキシユアなり其二人の女子の
名ゐ姉ゐメラブといひ妹ゐミカルといふ　五〇 サウルの妻の名ゐアヒノアムといひてアヒマアズの女子ゐり
其軍の長の名ゐアブネルといひてサウルの叔父なるネルの子ゐり　五一 サウルの父キシとアブネルの父ネル
ゐアビエルの子ゐり　五二 サウルの一生のあひだ恒にペリシテ人と烈しき戰ありサウルゐ力ある人または勇

エ 母上十一〇十一
テ 母下〇六

ア 母上十五〇三七

サ 母上卅一〇二　代上八〇卅三

キ 母上九〇一

ある人を見るごとにこれをのゝしへたり

一 茲にサムエルサウルにいひけるゝエホバ我をつかはし汝に膏を沃ぎて其民イスラエルの王となさしめたりされバエホバの言の聲をきけ 二 萬軍のエホバのくいひたまふ我アマレクがイスラエルにあせし事すなはちエジプトよりのぼれる時其途を遮り志をこのへりみる 三 今ゆきてアマレクを擊ち其有る物をことゞく滅しつくし彼らを憐むなかれ男女童稚哺乳兒牛羊駱駝驢馬を皆ころせ 四 サウル民をよびあつめてこれをテライムに核ふ步兵二十萬ユダの人一万あり 五 志ころしてサウルアマレクの邑にいたりて谷に兵を伏たり 六 サウルケニ人にいひけるゝ汝らゆきてさりアマレク人をはなれくだるべし恐らくゝのれらとともに汝らをほろぼすにいたらんイスラエルの子孫のエジプトよりのぼれる時汝らをれに恩みをほどこしたりと卽ちケニ人アマレク人をはなれてさりぬ 七 サウルアマレク人をうちてヘビラよりエジプトの東面なるシエルにいたる 八 サウルアマレク人の王アガグを生擒り刃をもて其民をことゞくほろぼせり 九 然どもサウロと民アガグをゆるしまた羊と牛の最も嘉きもの及び肥たる物並に羔と凡て善き物を殘して之をほろぼしつくすをこのまず但惡き弱き物をほろぼしつくせり 十 時にエホバの言サムエルにのぞみていはく 十一 我サウルを王となせしを悔ゆ其ゝ彼背きて我わ志たがはずわが命をおこなはざれバなりとサムエル憂て終夜エホバによゝばれり 十二 のくてサムエルサウルにあはんとて夙く起きけるにサムエルにつぐるものありていふサウルカルメルにいたり勝利の表を立て轉り進みてギルガルゆくだれりと 十三 サムエルサウルに許に至りけれバサウルこれにいひけるゝ汝ゞエホバより福祉を得んことをねがふ我エホバの命を行へりと 十四 サムエルいひけるゝ然らバわゞの耳にいる此羊の聲およびわゞのきく牛のこゑゝ何ぞや

ユ 母上八〇十一
イ 母上九〇十六
ロ 出十七〇八、十四　民二四〇廿、申二五〇十七、十八、十九　利二七〇二八、二九　曾六〇十七、十一
ハ 民二四〇廿一　士一〇十
ニ 創十四〇十一
ホ 創十八〇二五、十九〇十二、十四　利十八〇四
ヘ 出十八〇十、十九　民十〇廿九、廿二
ト 母上十四〇四八
チ 創二〇十一、二五〇十八
リ 創十六〇七
メ 王上廿二三四、三五
ル 母上廿〇一
ヲ 母上十五〇三、十五
ワ 母上十五〇三五　創六〇六、七、母十二四〇十六
カ 雲廿二〇十六、士九〇六
ヨ 母上十三〇十三、十五〇
タ 三九
母上十五〇三五、十六〇一
レ 雲十五〇五五
ソ 創十四〇十九　士十七〇二
祖廿三〇十

十五 サウルいひけるゝ人々これをアマレク人のところより引きゝたれり其ゝ民汝の神エホバにさゝげんために羊と牛の最も嘉きものをのこせバなり其ほかの我らほろぼしつくせり 十六 サムエルサウルにいひけるゝ止まれ昨夜エホバの我わかたりたまひしことを汝につげんサウルいひけるゝいへ 十七 サムエルいひけるゝささに汝ゞ微き者とみづからを憶へるときに爾イスラエルの支派の長となりしにあらずや卽ちエホバ汝わ膏を注いでイスラエルの王となせり 十八 エホバ汝を途わ遣はしていひたまふく往て惡人なるアマレク人をほろぼし其盡るまで戰へよと 十九 何故わ汝エホバの言をきかずして敵の所有物にはせのゝりエホバの目のまへに惡をおこなせしや 二十 サウルサムエルにいひけるゝ我誠にエホバの言わたゞひてエホバのつかはしたまふ途わゆきアマレクの王アガグを執きたりアマレクをほろぼしつくせり 二一 たゞ民其ほろぼしつくすべき物の最初としてギルガルにて汝の神エホバにさゝげんとて敵の物の中より羊と牛をとれり 二二 サムエルいひけるゝエホバいその言に志たがふ事を善したまふごとく燔祭と犧牲を善したまふや夫れ順ふ事い犧牲にまさり聽く事い牡羔の脂にまさるなり 二三 其ゝ違逆い魔術の罪のごとく抗戾い虛しき物につかふる如く偶像につかふるゞごとし汝エホバの言を棄たるにより エホバもまた汝をすてゝ王たらざらしめたまふ 二四 サウルサムエルにいひけるゝ我エホバの命と汝の言をやぶりて罪ををかしたり是い民をおそれて其言に志たがひたるによりてあり 二五 されバ今ねゞむくゝわがつみをゆるし我とともにかへりて我をして エホバを拜することをえさしめよ 二六 サムエルサウルにいひけるゝ我汝とともにかへらじ汝エホバの言を棄たるゝよりエホバ汝をすてゝイスラエルゝ王たらざらしめたまはざれバなり 二七 サムエル去らんとて振還しときサウルその明衣の裾を捉へしかバ裂たり 二八 サムエルのれゝいひけるゝ今日エホバイスラエルの國を裂

ソ 母上十五〇九、廿一　創三〇十二　雲二八〇十三
ム 詩五十〇八、九　雲廿一〇
三 賢一〇十一、十二、十三、十六、十七　耶七〇廿、二廿三　米六〇六、七、八　哀十〇六、七、八、九　何六〇六　太五〇二四、九〇十三、十二〇七　可十二〇廿三
ウ 傳五〇一
井 申十八〇十
ノ 母上十三〇十四
オ 母下十二〇十三　出廿三〇二　雲五一〇十二、十三
ク 出廿三〇二　民二九〇二五
ヤ 母上二〇廿
マ 王上十一〇廿
ケ 母上二八〇十七、十八　王上十二〇廿一

て汝よりはおし汝の隣おる汝より善きものゐてれをあたへたまふ　二九 またイスラエルの能力たる者い謊らず悔ず其いのれい人にあらざればくゆることおし　三十 サウルいひけるい我罪ををこのしたれどねがはくい
が民の長老のまへおよびイスラエルのまへおて我をたふとみて我とともゐのへり我をして汝の神エホバ
を拜むことをえさしめよ　三一 てゝゐおいてサムエルサウルにゑたがひてこのへる ゑこのして サウルエホバを拜
む　三二 時にサムエルいひけるい汝らわゞ許にアマレクの王アガグをひきたれとアガグ喜むしげにサムエ
ルの許わきたりアガグいひけるい汝らわゞ許にアマレクの王アガグをひきたれとアガグ喜むしげにサムエ
を子なき者となせりのくのごとく汝の母い婦人の中の最も子なき者とおるべしとサムエルギルガルにて
エホバのまへにおいてアガグを斬り　三四 このくてサムエルいラマにゆきサウルいサウルのキベアにのぼりて
ろの家にいたる　三五 サムエル其死ぬる日までふたゝびきたりてサウルをこざりき ゑこのれどもサムエルサウ
ルのためにこのなしめりまたエホバいサウルをイスラエルの王となせしを悔たまへり

第十六章

一 爰にエホバサムエルにいひたまひけるい我すでにサウルを棄てイスラエルに王たらしめ
ざるに汝いつまでこのれのために歎くや汝の角に膏油を滿してゆけ我汝をベテレヘム人エサイの許わつの
むさん其い我其子の中にひとりの王を尋ねえたれべなり　二 サムエルいひけるい我いのでに往くことをえん
サウル聞て我をころさんエホバいひたまひけるい汝一犢を攜へゆきて言へエホバに犧牲をさゝげんため
ゐ來ると　三 ゑこのしてエサイを犧牲の場によべ我汝の爲すべき事をゑめさんわゞ汝に告るところの人に膏
をそゝぐ可し　四 サムエルエホバ語たまひしごとくなしてベテレヘムゐいたる邑の長老おろれて之をむの
へいひけるい汝平康おる事のためにきたるや　五 サムエルいひけるい平康なることのためおり我いエホバ

フ 民廿三〇十九　結二四〇十四　農校二〇十三　多一〇二
コ 詩五〇四四、十二〇四三
エ 出十七〇十一　民十四〇四五　士一〇七
テ 母上十一〇四
ア 母上十九〇二四　サ 母上十五〇十一、十六〇一
キ 母上十五〇十一
イ 母上十五〇廿三
ロ 母上十五〇三五　ハ 母上九〇十六　王下九〇一
ニ 詩七八〇七十、八九〇十九、廿　箴十三〇廿二
ホ 母上九〇十二、廿〇二九
ヘ 出四〇十九　ト 母上九〇十六
チ 母上十一〇一
リ 王上二〇十三　王下九〇廿二

に犧牲をさゝげんとてきたる汝ら身をきよめて我とともに犧牲の場にきたれと斯てエサイと其諸子を潔
めて犧牲の場によびきたる　六 ゑこれらの至れる時サムエルエリアブを見ておもへらくエホバの膏ゝゝゝゝ
のい必ず此人おらんと　七 ゑこのるおエホバサムエルおいひたまひけるい其容貌と身長を觀るなこれ我すで
にこれをすてたりわが視るところい人に異なり人い外の貌を見エホバい心ろをみるなり　八 エサイアビナ
ダブをよびてサムエルのまへを過しむサムエルいひけるい此人もまたエホバ擇みたまえず　九 エサイシヤ
ンマを過ぎしむサムエルいひけるい此人もまたエホバえらみたまいず　十 エサイ其七人の子をしてサムエ
ルのまへをすぎしむサムエルエサイにいふエホバ是等をえらみたまいず　十一 サムエルエサイにいひけるい
汝の男子い皆此にをるやエサイいひけるい尚季子のこれり彼い羊を牧をるなりとサムエルエサイにいひ
けるい彼を迎へきたらしめよこれが此にいたるまでい我ら食ゐ就ゐざるべし　十二 是において人をつかはし
てこれをつれきたらしむ其人色赤く目美しくして其貌麗しエホバいひたまひけるい起てこれゐあぶら
を沃げ是其人おり　十三 サムエル膏の角をとりて其兄弟の中にてこれゐ膏をゝそゝげり此日よりのちエホバの
靈ダビデゐのゞむサムエルいたちてラマにゆけり　十四 このくてエホバの靈サウルをはなれエホバより來る惡
鬼これを惱せり　十五 サウルの臣僕これゐいひけるい視よ神より來れる惡鬼汝をおやまず　十六 ねがはくいわれ
らの主汝のまへにつのふる臣僕ゐ命じて善く琴を皷く者一人を求めしめよ神よりきたれる惡鬼汝ゐ臨む
時彼手をもて琴を皷て汝いゆることをえん　十七 サウル臣僕ゐいひけるいわがためゐ巧ゐ皷琴者をたづねて
わがもとゐつれきたれ　十八 時ゐ一人の少者こたへていひけるい我ベテレヘム人エサイの子を見しが琴に巧
ゐしてまた豪氣して善くたゝかふ辯舌さはやかなる美しき人なりのつエホバこれとゝもゐいます　十九 サウ

ス 出十九〇十、十四　ル 母上十七〇十三　代上二七〇十八　チ 王上十二〇二六
ワ 詩百四七〇十、十一　カ 箴五五〇八　ヨ 羇伝十〇七　タ 王上八〇三九　代上二八〇九、十七〇十、廿〇十一、十二　徒一〇二四
レ 母上十七〇十三　ソ 母上十七〇十三　ツ 母上十七〇十三　代上二〇十三
ツ 母上十七〇十三
子 母下七〇八　詩七八〇七十
ナ 母上十七〇四二　歌五〇十　ラ 母上十〇十七　詩八九〇廿　ム 母上十〇一七　ウ 民二七〇十八　士十一〇九、十二〇二五、十四〇六、十五　非 士十六〇廿　母上十一〇六、十八〇十二、二八〇十　ノ 士九〇廿三　母上十八〇十、十九〇九
オ 創四一〇四十六　母上十六〇廿一、廿二　王上十〇八
グ 母上十六〇廿三　王下三〇十五
ヤ 母上十七〇廿二、三四二、五三六　マ 母上三〇十九、十八〇十二、十四